

平成28年度文部科学省「専修学校版デュアル教育推進事業
(医療事務における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成)」

第1回事業推進委員会議事録

1. 日時 平成28年11月16日(水) 14:00～15:30
2. 場所 アルカディア市ヶ谷
3. 出席者 岡村慎一 YIC ビジネスアート専門学校
増子卓矢 郡山情報ビジネス公務員専門学校
岩田和人 中央情報経理専門学校
清水利朗 長野平青学園
長谷川綾子 富山情報ビジネス専門学校
高岡信吾 専門学校岡山情報ビジネス学院
三好純子 河原パティシェ・医療・観光専門学校
上野慎輔 麻生医療福祉専門学校
森合恵子 郡山情報ビジネス公務員専門学校
佐藤昭宏 ベネッセ教育総合研究所
猪俣昇 株式会社ウィネット
井上肇 聖マリアンナ医科大学
石飛隆敏 社会医療法人 製鉄記念八幡病院
渡辺元三 社会福祉法人聖母会 聖母病院 合計14名(4名欠席)
4. 議事
 - ①委員紹介
 - ②委員長より事業説明
 - ③「事業に対する質問・要望」
 - ・視察調査の概要を知りたい 何人でどのくらい聞き取りをするのか
 - ・ガイドラインは病院の為なのか、学校のためなのか Win Win の関係を築く必要がある
 - ・卒業生からの視点も今後盛り込みたい
 - ・実習の受け入れ時期が学校によってバラバラだが、今後学習成果を考えたシラバスになるといい
 - ・ガイドラインは実習前・実習後教育を含めたものにすべき
 - ・病床数等、調査対象病院は揃えたほうがいいのではないかと
 - ・三菱総研とすり合わせが必要
 - ・医療事務の質保証のための実習と考えれば、病院規模は関係ない

- ・病院と学校側で共通認識となる実習ガイドラインがあると打ち合わせがしやすくなる
- ・実習生を受け入れる病院側も実習日誌の点検等、大変であるため、それぞれのメリットがあるとよい
- ・学生のメンタルのサポート体制も盛り込んでほしい
- ・実習ノートひとつとっても決まった形(必要事項)があると助かる
- ・実習とは参画型・補助型・体験型というインターンシップ 3 区分があり、この 3 段階の実習を想定すべきである
- ・専門職業大学の実習プランニングを想定すべき

「医療事務の今後についての意見・要望」

- ・情報を収集するだけでなく、その情報をまとめて医師に提案できる能力が今後必要
- ・対人能力はもちろんだが、分析提案能力は必要である
- ・受け付けはほぼ委託であり、その委託をまとめられる人材が求められる
- ・病院に 7 地区によって人物像は様々である
- ・大きな病院はマネジメント能力を求めため、大卒が中心である
- ・医療事務の将来を考えたカリキュラムが必要である

※事業の今後について、各委員から積極的な意見が交わされ、調査内容及び仕様書について、いくつかの提案内容を入れることで承認された
また、仕様書等の軽微な変更は、岡村委員会総括および事務局に一任された

5. 今後の予定・役割分担 7 地区の調査予定日調整

6. 委員会日程 2016/12/12
2017/1/17
2017/2/3 予定

以上